
詩歌・小説の中のはきもの (第21回)

大塚製靴株式会社社友 渡 辺 陸

197 地面をいろいろな履き物が鳴らす。革の草履、革紐で足首をぐるぐる巻きつけたサンダル、拍車の付いた銀色のビニールブーツ、裸足、エナメルのハイヒール、バスケットシューズ、さまざまな色の口紅がマニキュアがアイシャドウが髪の毛が頬紅が音に合わせて揺れ、巨大な一つのざわめきを作る。

村上 龍

★『限りなく透明に近いブルー』から。「限りなくナントカに近い」という言葉が流行ったほどのベストセラーになった小説。麻薬、乱交パーティ、全裸に近い女の踊るロックコンサートなどが若々しい感覚で描かれているので評判になったのだが、この短い履き物の羅列からも新鮮な感覚による描写の一端は知ることができるだろう。

198 母は夏になると布製のメッシュの靴をはいた。

そして、その白い靴にドロドロの白いクリームを歯ブラシでぬりつけた。私はそのクリームは白墨を粉にして作るのだと思っていた。かわいてポロッと落ちたものを指でこすると白墨の粉と同じ匂いがあったのだ。かかとの高いその靴をはいて、パラソルをさして母はどこかに出かけて行った。

佐野洋子

★『私はそうは思わない』から。母親がどこか分からない所へ出掛ける不可解な思いが、メッシュのハイヒールを少女の頭に刷り込んでしまったのだろう。昔は親子共用

の靴などというものがあつたから、私の場合、大人になってからの父親の靴のデザインを覚えているが、少年のときの両親の履物など何も覚えていない。子供がそんなことまかに親の履物を記憶として残しているのが、なんだか羨ましく思える。

199 だが、俺のブルー・スウェード・シューズを踏まないでくれ、何をしたっていいが、俺のブルー・スウェード・シューズにだけは手出しをしないでくれ。

エルビス・プレスリーの歌

★作家の五木寛之はこの歌を聴いて、イギリス製の濃紺のスウェード靴を買い、服とのコーディネートがどうしてもうまくできなくて、三十年以上一度も地面を踏まぬままに愛蔵しているという。私も本なら、購入して三十年くらい読まずに蔵書しているものがある。「一足の爪革草履も蔵にあり花嫁姿の吾は沓けし 金澤すみゑ」という歌を見ると、他人に手出しをさせたくないほど愛着をもつのは、自分の人生と不可分の記憶が刻まれたものだと分かる。偉大な歌手と不可分の記憶をもつ靴とともに暮らせるというのは幸せなことだ。

200 リュウジはスパイクを二種類持ち込んだ。裏のスタッドが固定式のものを取り替え式のを両手に持っている。今日の自分のポジション、トップ下あたりの芝で履いてみる。

ふんだんに水が撒かれるスペインのピッチは柔らかく、スタッドの少ない取り替え式を履くことが多い。滑らないために

はその方が優れているのだ。しかし固いピッチでスタッドが少ないスパイクだと、足にストレスを感じてしまう。

野沢 尚

★『龍時 02—03』から。サッカーがこれだけ人気を集めているのだから、サッカーシューズが小説に記述されるだろうと探していて、初めて見つけたものである。スタッドとは鋌のこと。スポーツ小説にはめったにシューズが書かれない。サッカーなどはユニフォームとボールを除くとスパイクシューズしかないのだから、もっと現われてもよさそうな気がする。

201 黒い胴着、それと飾り紐で結びつけられる黒の股引、灰黒色の上着、拍車のついた上等の褐色の革の乗馬靴、そして黒の直垂を彼女のために誂えた。これらは当時の軍服であって、彼女は天の声に従い、このときから女装を離れたのである。

大谷 暢順

★『聖ジャンヌ＝ダルク』から。ナポレオン、クビライ、リンカーン、ゲーテなどなど、有名人の履物が気になったとき、そのつど調べている。ジャンヌ＝ダルクの場合、周りの人がお金を出し合って甲冑や剣まで調達し、誂えたのである。後で裁判にかけられたとき「男装して女性の慎みを犯した」という罪を科せられる。描かれたどの絵画にもオレルアンの農家の少女は裸足で現われる。一四二九年三月六日、シノン城下に旅装を解いた宿屋の前にある石は、彼女が馬から下りたときに足を乗せたものとして現在も大切にされている。

202 女の買物に悩まされたのは日本だけの経験ではなく、ニューヨークでもアメリカ人のおばさんのお供をしてサックス・フィフス・アベニューへ行き、何十足もハイヒールを出させ、延々二時間を費やし、ついに一足も買わずに出て来るという厚かましい大事業に附合って、死にたい気持ちになったこともある。

三島由紀夫

★『第一の性』から、三島さんご苦労さん。しかし、あんなにも言葉に彫琢を加えた三島さんなのだから、そこまで厳格な靴選びをするという彼女に少しは共感すべきであった。同じサイズ、同じウイズの靴でも微妙に異なるのが靴という商品である。このおばさんはそれを経験的に知っているから、粘りに粘ったのだと思う。そして大半の靴が入れ替わる季節を変えて、また探しに来ようと考えたのだろう。それは靴の正しい選び方である。

203 私はエナメルに感謝の祈りをささげ、靴、ハンドバックなどの皮革製品の古くなってほうり込んであったのを次々ととり出してはエジプト模様風だの、アンリ・ルソオみたいのだの、シャガールの幻想風だのと塗り立てた。皮革製品だからといって、その専用でなくても、そのころ小カン一個九十円ぐらいので立派に用をなし、捨てられる運命にあった彼らは、遂にテレビというマスコミ舞台にまで登場する出世ぶりであった。

城 夏子

★『美しいもの 楽しいもの』から。買って来た靴をそのまま履くのではなくて、自分の好みにアレンジして履くというのは楽しいことだろう。私は平林たい子文学賞の受賞式パーティに現れる小説家の足元を受付係として何年にもわたって見つめていたが、ある年、小柄なおばあちゃんが、白・ピンク・ブルーのエナメルが波の寄せるようなメルヒエンチックなストライプ入りの靴を履いているのに気づいた。それが城夏子さんだったのである。

204 タコ焼を胃におさめ
花の香りを肺におさめて
足型がゆく

頼りは二本の
きゃしゃなひも

ひもを足首にまきつかせて
足型はすがりつく

甲を抱きかかえ
離さない

夜更けに玄関で
足型は
肩こりの薬をさがしている

北藤 徹

★『神経バス』の中の「サンダル」の一節。
下駄箱に履物を収納するのは、いかにも暑
苦しげで、窒息させるような仕草に思えて
何か気の毒である。だから玄関に靴やサン
ダルを置く。そして夜中通りがかりに、何
気なくフツと彼ら彼女らの表情を見ると、
こんな細身でよく頑張ってるなあとか、休
日の夜までそんなに踏ん張っていなくても
いいんだよと声をかけたくることがある。

205 吉田さんの体は傾いている。傾きな
がらトットトットと歩いてゆく。
吉田さんは陸軍の戦闘帽(略帽)をかぶっ
ている。夏は開襟シャツである。ズボン
は忘れた。靴が破れていた。ふつう、靴
は靴底が破れるのであるが、吉田さんの
場合は、靴の横っ腹が破れていた。とて
も貧乏しているという噂があった。

山口 瞳

★『わが師わが友』から。昭和二十一年の
ことだという。この年の五月二十一日、吉
田健一の父茂は内閣を組閣し、総理大臣に
なっている。葬儀の日、山口は身体の不自
由な人がしばしばそうであるように、健一
の毅然たる態度は小児麻痺に罹ったこと
によるものではないかと推測したが、単に足
が悪かったただと聞いて「横っ腹の破れ」
と「すぐにタクシーに乗りたがる」のは靴
の損傷を恐れてのことではなかったかと偲
ぶ。作家・評論家・翻訳家として活躍した
吉田健一のドタ靴は有名で、靴はそれほど
彼の人格と切り離し難いものであったこと
を物語っている。

206 毎日ぼくが同じ靴を履くのを防止す
るために、靴底の裏に番号が大きく書い
てある。カミさんの仕業だ。彼女は「昨

日は3番履いたんだから、今日は4番よ」
と玄関でいう。そして小声で「これでお
洒落サンなどといわれているの?」と
知っているのを、ぼくは聞こえないふり
をして家を出る。

妹尾河童

★『河童のスケッチブック』の「粋なお洒
落」から。妹尾は同じ靴を七足持っている
という。それは居候させてくれたオペラ歌
手の藤原義江が、他人には全く気づかれな
いような、ほとんど同じ柄の洋服を二着同
時に新調し、それが本当のお洒落なのだ
と彼に教えたからだという。私は会社に入
ったとき、裕福でお洒落な上司から、「懐の
淋しい者は背広に紺だの茶だの浮気しな
いで一色で行くのが安上がりの秘訣だよ」と
教わってから、紺で四十余年を通した。社
内のクラスター分析のサンプルとして、ひ
そかに「永遠にスタイルを変えない超保守
型」に分類されていた。

207 ルーコシアの 麗しいみ手と
海辺を統べる その息子にかけて、
海の精セティスの 銀靴はく足と
甘美なシレーヌの 歌声にかけて、
……

真珠と かがやく河床から
バラのような お顔をあげ、
逆まく 川波を とめて わたしたちの
祈りに お応えください。
どうか お聞きのうえ お助けください。
ジョン・ミルトン

★『映画で英詩入門』から。「うるわしの
サブリーナ」の一節、あと六つも「……にか
けて」とうたわれている。サブリーナはイギ
リスの川の古名で、その川の水の妖精たち
を従える女神。オードリー・ヘップバーン
が映画『麗しのサブリーナ』の中で履いたヒール
の低い浅い靴は「サブリーナシューズ」と
呼ばれ大流行した。彼女は「ヘップサン
ダル」(ヘップバーンサンダル)でも靴業界
を喜ばせている。業界の「恩人」として感
謝されるべき女優である。